

第1回総合福祉計画策定委員会 全大会 委員意見交換（要点のみ）

委員名	発言内容
唐澤委員	高齢者の定義をどう考えるか。65歳以上として取扱っているが、65歳以上で活躍している人は多い。働き手が減り70歳まで働かないと職場としても回っていかないし、収入としても必要。
白鳥実委員	今日の新聞記事で2070年には高齢化率が4割に達する見込みと報じられ、町の推計でも2040年には高齢化率が4割見込みになっているが、富田の高齢化率は既に4割を超えている。地区懇談会で示された推計より早い。 80歳を超えても働いている。 高齢者を訪問し、生きがいを聞くと、「食べれて・話せて・一日元気に過ごせる」ことだと聞く。
町長	高齢者の定義についてもこの会議で考えていただきたいが、一律にこれまで65歳とした高齢者を、元気だから75歳に引き上げる考えはない。 70歳を超えると、状態に個体差が大きく、一律に施策として取り組む場合に（フォローしなくてはいけない人の）取りこぼしが出る可能性がある。 高齢化率は県内7～8番目（で低い）。（R4.10.1 現在 10位） また、人口減少が進むので相対的に高齢化率は上がるが、高齢者の数が増えるわけではない。いずれ減っていく。県内の過疎が進んだ地域は既にそういう状況になっている。
白鳥泉委員	保護士会の立場で参加している。犯罪率は下がっているが、再犯率は高い。近隣では辰野町と駒ヶ根市で再犯防止推進計画を策定しており、町でもぜひ策定してほしい。
町長	今回の計画更新に伴って、既存の再犯防止の計画の書きぶりを見直すことにしており、計画に入れ込む方針で、拡充させていただきたい。
中村委員	障がい者を訪問して状況をうかがっていると、障がい者本人の問題のみならず、家族内の問題なども見えてきて、それが複雑に絡み合っていることがあるが、そういった問題が起こる前に、予防的に対応することが大切であることを感じている。
東委員	私が住んでいる地区では、区に入らない、区を脱会する家が見られる。地域での支えあいを考えていくうえで、そういった問題をどうするか。 グループホームにおいても、利用者の高齢化が進んでいる。また、従事する職員も高齢化が進んでいる。
寺平委員	私の住んでいる地域でも、高齢化により役が受けられず、それを理由に区や常会をやめる人が出てきた。これまでと地域の状況が同じだと思っていると間違う。
水田委員	住み慣れた地域で最後まで、というのが、実際にはすごく大変である。 家族は70代でも働いている。助けてあげたいが。
伊東委員	知的障害の施設で働いているが、本人たちが40から50代になって、そこからさらに何十年。親たちも子供を手放せない。そういった人たちは地域の中に出てこない。
大槻委員	長寿クラブへの加入者が減っている。加入することに魅力を感じないようだ。

